

香元執筆見書

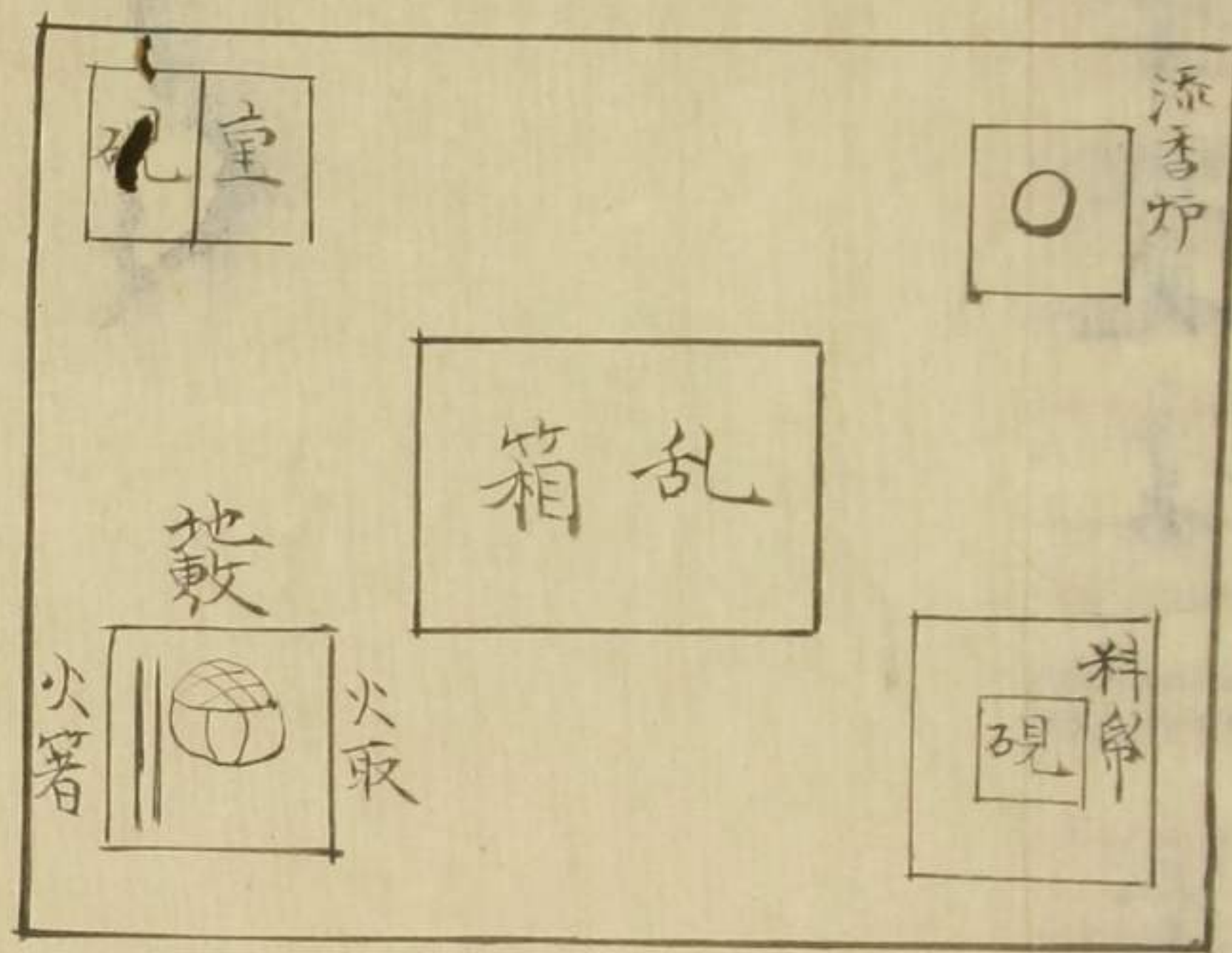
全

9多ヲ
1338
6

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

門多9
 號 / 398
 卷 6

香道具床飾畧圖



香元覺



一 香室のりけ各々換りしそ床あへり火取
 香燵右のふりそ古の膝の服ありし同く
 火取箸香燵のたよありしあふりそ地爰
 紙火向の角と持懐中し火取香燵
 火取箸持替ふ入
 一 替ふりそたどんと火取香燵入火取香

燵火取箸持物もつゝを礼とあり 後も口
し之香えのせり着。火取香燵右の膝の向
まは火取箸香燵のたまを立

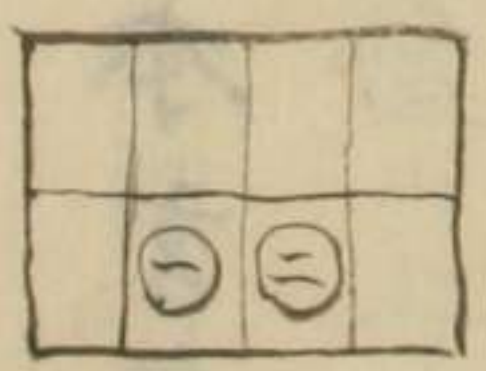
一本あはれ 乱箸三合一川州 持香えの
すゝり 乱箸と火え香燵のたまを火取
香燵火え箸持正面を向 香燵下を
火箸 香燵のたまを 乱箸川出ま
其の目四つし

一の香燵右より取たよのせたの方を二の
香燵右より火え箸取一の香燵のたまを
箸とたよ 持右より火え香燵とよせ火取
箸と右より持火取箸とよせ 不やと
取膳も立たよんの大ききとく又合灰は
火とけけたよんを生る火取香燵の
灰とあしし 火箸たよとよ 右よと
不やと度よ火箸とよ不やのあの方よ

四 又押又押押仕ぬ。まじ口と再よく
 此舟く正面まじ口とよく向よせ二の
 香煙右同係二の香煙の押仕ぬ。まじに
 して一の香煙あよせ左右のよそ火をん
 とんて建の両耳んて横よ出 火若灰押
 相第し次方の通よさし 建の両耳ん
 て以立よ入

一二の香煙ん 乱袋よ平 一の香煙右同執

持智 表をく 其係開き左よ向
 左の角とわけ右のよ右同向よ
 ちけて開き下よあん



一の香煙二の香煙し地敷紙の上よる
 一 乱袋よある札袋の蓋半んひさの上よ左
 一のよせ右よそ改の地浦紙よ並行
 一 志野折ろ左のよ一のよ香包よあよかき

一 志野折 乱笥は並に

一 試の香包をとん 一二三と一ツ取次方の
通る。盤の向は並へ流の本香包と一匹
して香袋をい 乱笥の角の方に入ると本香包
とききりませ 地浦紙の左の方に入

一 建の片耳 入れては等々出 火箸は
うらわま 出まむ うらわま 火箸の右
並あり

一 建のあの方 ころく 横入

一 折居と取 一より次方と何々 地浦紙は並
一 浪入の蓋とみ ありはあ 並
浪と一 一二三の試包の上は並 次は盤の上は
銀と並 並へか 矢敷香のこまき 十二粒のどの
銀と並 盤の末の方 二ツ重なる並をさき
下は並 銀入のこまき 乱笥は並
あのみ 乱笥をさし 引い 是を銀と

の蓋を掲げて蓋を

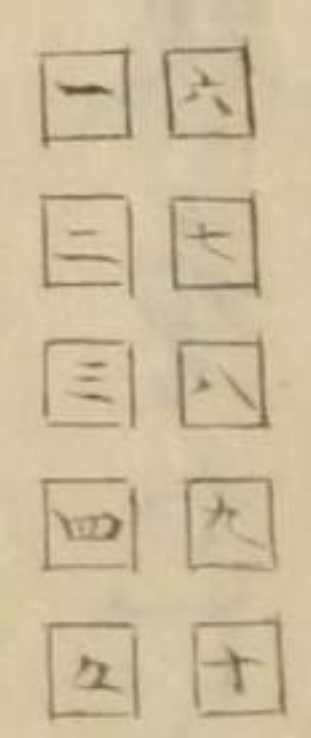
一香元一禮も是ハ焼出の礼なりを答よ
半中まきより心のこもり候なり

一たきみえ一の試の銀糸と一の香煙よ
のせ糸掲げて火くげんとんそさどとん
右のよう一なる香包をん焼出をさど
よく香をすくよく干候包ハ下は捨香煙
と上答よ出も一二三と度よ以て出ま

二の香煙と中よよせあより試の色を向
あたまきみえりけ浪多うと連二の香煙
焼出に

一試終るへ出香焼出も本香包の香さうを
きよせ取めけ焼出も干候折居と出
うらめや地浦紙に向むけ建香包を
くくいさよさる花香包はあよ一ツは残り
うらめやうらめきよせ連よんりけ

柱出き折居香子 四つの中より右のふり
折居持ありし右ふりし折居右ふりせ
四つ耳くし折居の並みとあけ
右の次水子重ぬけし追ては並みの香燵
四つ仕もくしおあの香燵と上よりあけ
香燵二つ並し。



一乱茶川よせ二の香燵入次一の香燵右同
一折居五より五河ヶ上よ次水子重ぬ執事

よき又六より五河ヶ右同

一香包下よりくわきま持入香包と上よ
一五より五のくわきま持入
一執事よ出ま

一柱く入出浪茶ふ茶出蓋のつむし
あより

一他上各の方よ柱く入ハ河くは乃各
一ちきみして銀をふとちきみくまう浪茶子

付くもの拵くそ居し浪をうそ一ツつ
箱に入ら

他右より取たのみのせ蓋よりして
乱箱より進ませり

一柱立入右同

一盤と進ませ

一建の年と右より移りある年入て横は
出し火箸さし進ませみと修むるさし建

の右の片耳入て横に入ら

一試包たのみのせ一二三として乱箱の角

より進乱箱引込せ地浦紙の向の右の角

より持一礼して右より四り懐中しそがし

膝より他は時客
おす馬香煙二ツもたまきよ

よせ火取箸扱火取香煙のりやと

取り一の香煙よりたるとんを出し火取香煙

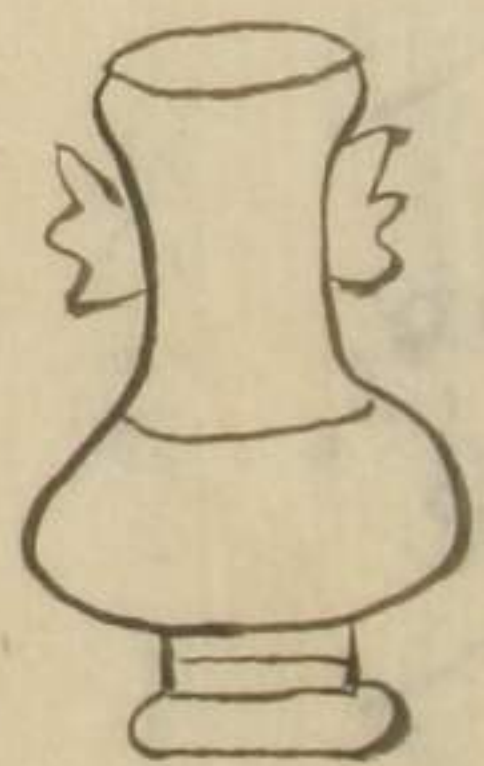
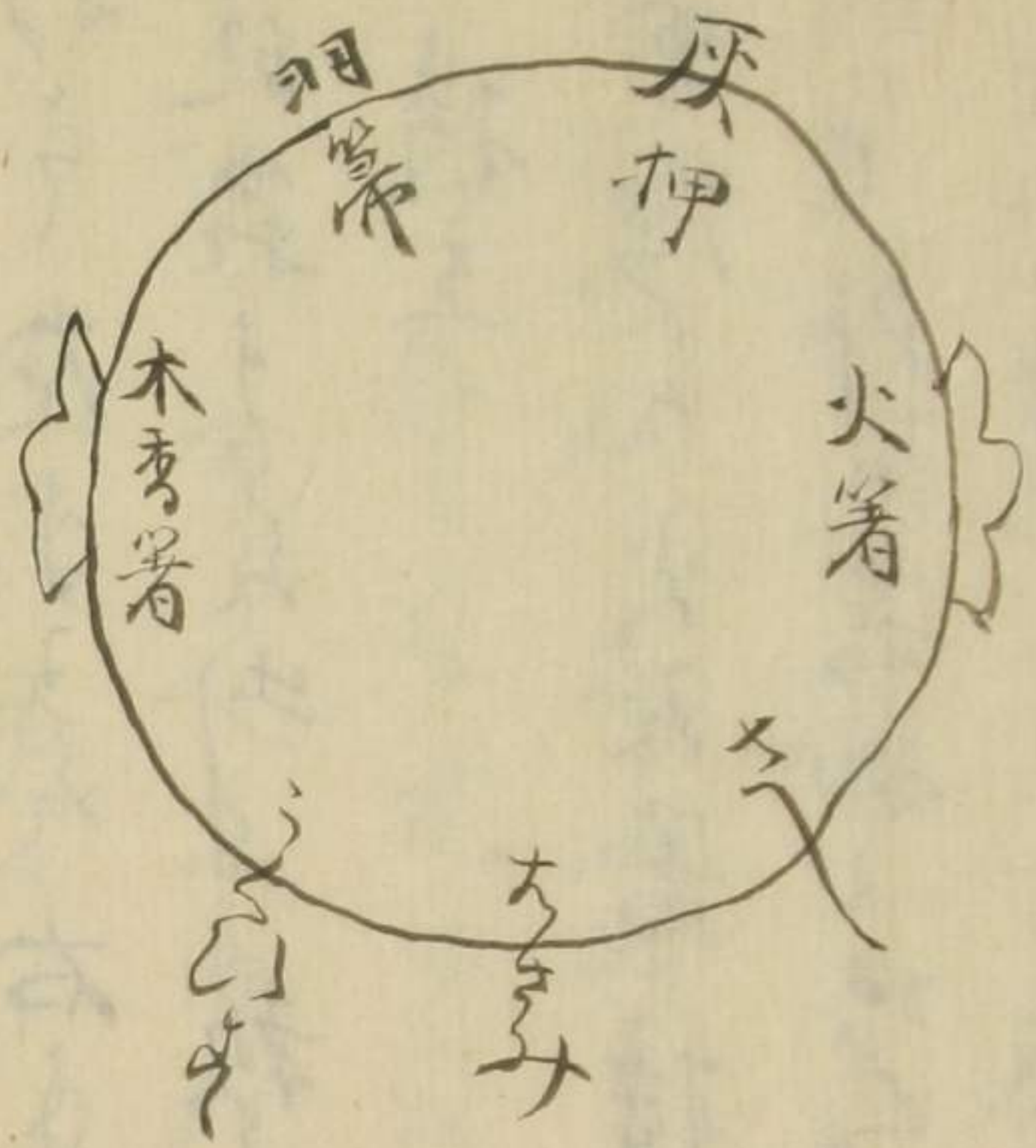
よ入香煙の灰十文字よたまきみ二の

香爐 田記

- 一 火取香爐蓋をとめて元の処に置く 此火取の乱箱中通す
- 一 香爐の火取箸を灰とくき取りををきまて
- 一 よく香付のんく 香爐の灰とくし
- 一 箸を三ツ斗にも元をゆけ火取をゆけ
- 一 火取香爐をゆくと香爐の乱箱に入る
- 一 執事より乱箱の蓋をゆくと乱箱の蓋は
- 一 右より盤の蓋をとめて乱箱の蓋は

- 一 折居一二三の次序ゆくと元乱箱の蓋を
- 一 ころめを左より右よりと建てる
- 一 香居乱箱より出 執事の後
- 一 乱箱持立
- 一 火取香爐を火取箸持より持よりと
- 一 はらうんく 外の器物をゆくる
- 一 持より火取香爐持出元の處に置く
- 一 香元の處に着主客一礼して畢

建の次及具さるる形



執筆覺

一香気火取と燵拵勝子入り執る子拵子

口より一礼して出立あはる但棚篋の付ハ棚あ
亦あはつて付ハ亦あは

料紙硯を拵て執る子の座を着料紙硯

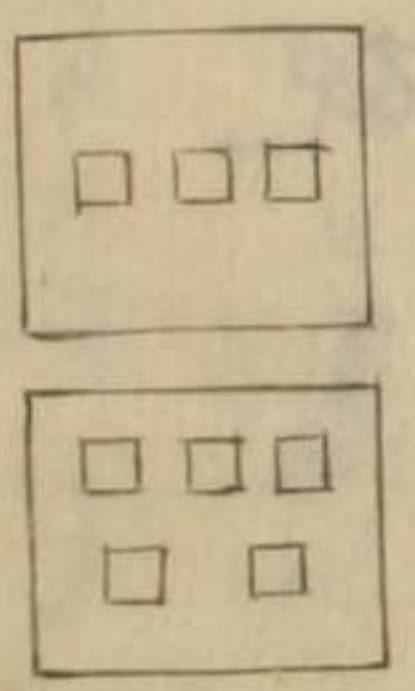
並付するものも中々着

一香気拵より出立火を並付又立て乱筆

取より拵り料紙硯の蓋とより

一のりし紙とひきき、そのまゝ筆をとめて香の
 類号と書
 一のりし紙とひきき、そのまゝ筆をとめて香の
 類号と書
 一のりし紙とひきき、そのまゝ筆をとめて香の
 類号と書

一のりし紙とひきき、そのまゝ筆をとめて香の
 類号と書
 一のりし紙とひきき、そのまゝ筆をとめて香の
 類号と書
 一のりし紙とひきき、そのまゝ筆をとめて香の
 類号と書



一 記録の礼治の振、銘、乃名を記す
題号の右に一二三各々記す
硯の蓋を
向、まゝ、硯を、料紙の上、或、記録
と硯の上、或、

一 硯蓋とあるは、主、香元の灰のまじり
待、む、香元の灰、ま、あ、ち、や、ま、み、ま、い、
香元、ま、い、て、執、字、の、す、ま、ま、ま、ま、
双方、併、合、て、

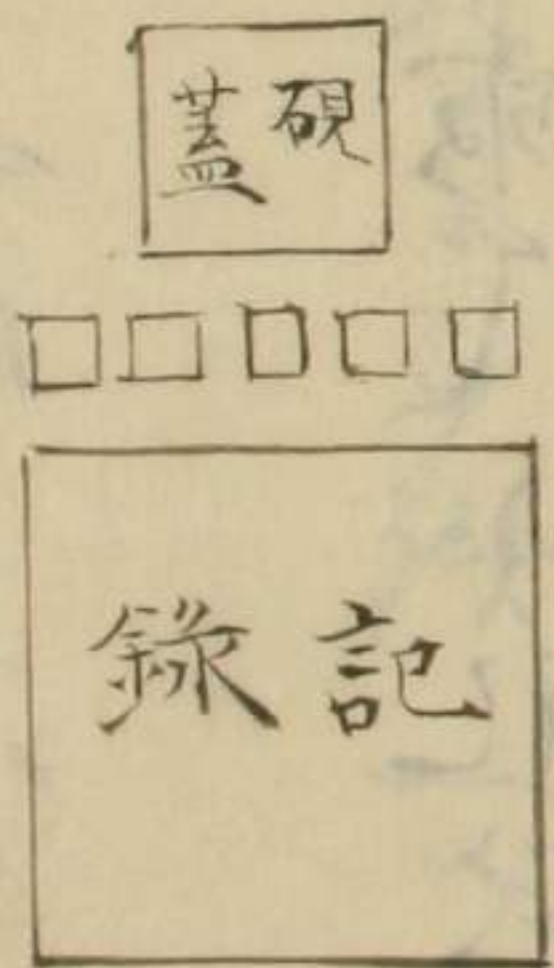
一 香元、灰、ま、ま、ま、ま、二、の、香、粒、乱、れ、入、を
ま、ま、ま、ま、ま、ま、硯、蓋、の、ま、ま、ま、ま、ま、
上、各、ま、出、を、硯、蓋、と、下、ま、ま、ま、ま、向、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、
一 札、次、才、ま、四、硯、蓋、振、字、ま、ま、ま、ま、香、元、の
札、と、執、字、ま、ま、ま、香、元、ま、ま、ま、ま、
札、も、取、て、ま、ま、ま、
一 記、紙、と、硯、上、ま、ま、ま、硯、の、蓋、と

よく記録と元の通し 硯の上を
並

一為り香檳上各より二各は圓とて
扱ふ 硯の蓋をさへおよし
の礼、右よりせよし上各は硯蓋と持
りおの^{コトク}を向せよ

一上各より礼袋と併し入圓一扱ふ
本とし昔礼袋も蓋より入香檳の礼袋

も入て向し出 硯をさへ海より出 墨と
すりきと併し硯を右よりせ 記録紙
およし出 開き向の礼袋と硯蓋より
併し出 記録の向
はあしを硯蓋と



一香檳より出し折居一よりえれとよし
わけ折居とハ硯のさへの方を並れハ格と乃

併し 尋常なれば

一 洛との 贈と 秀と 出なる 合ふ ぬれ ぬれ ぬれ

く けり ぬ 洛と けり ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ

一 秀と 出なる 秀と 洛と ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ

月日出 秀と 誰と 書に 併し 幾時 有る 時

一 秀と 出なる 秀と 洛と ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ

と 向く すと ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ

紙の上へ 色 記 添と 取 巻 へ 上 各 へ

出

一 科 紙 硯 五 三 へ 元 饒り あり ぬれ ぬれ

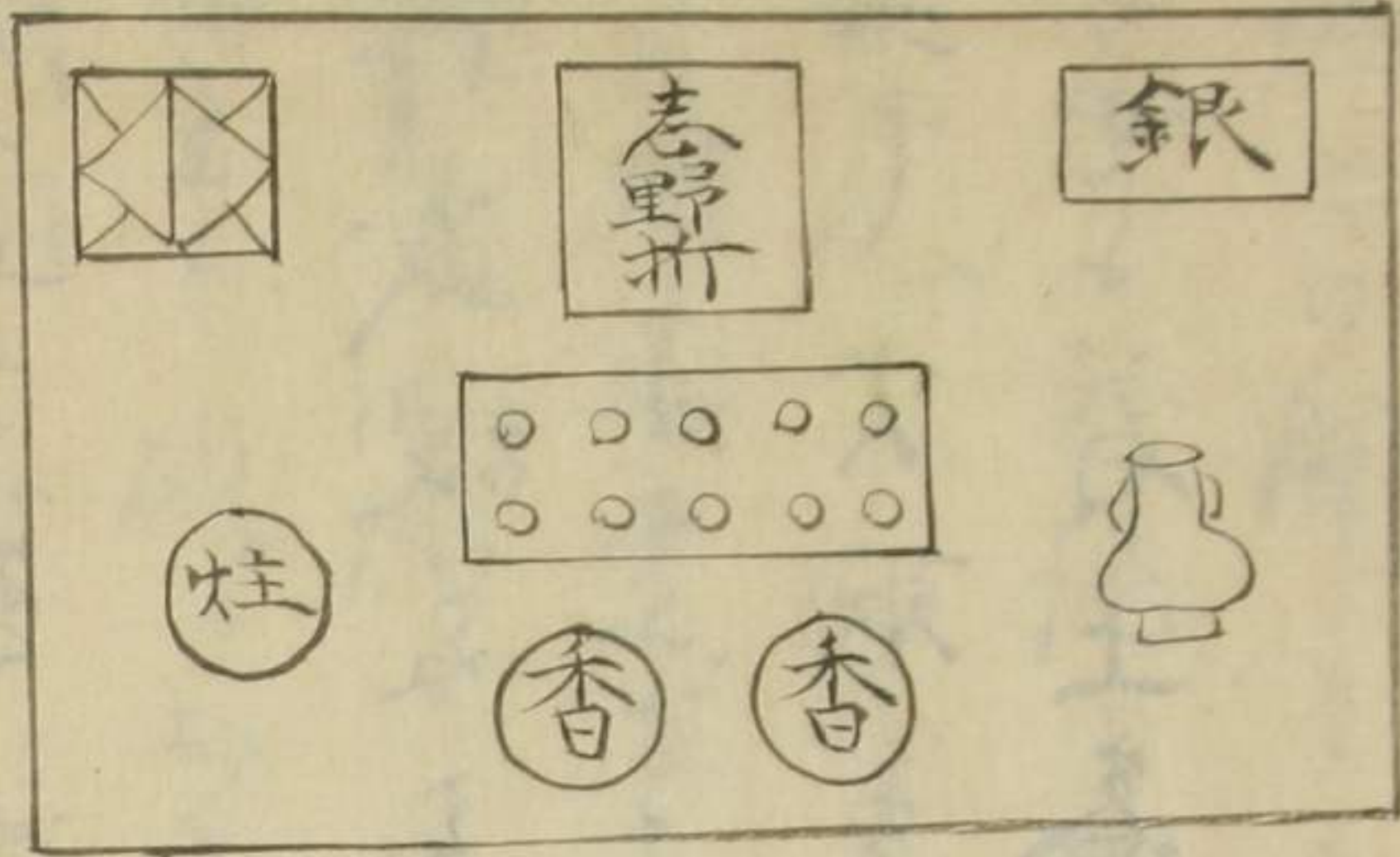
り 執り ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ

出 へ 火 取 香 燻 と ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ

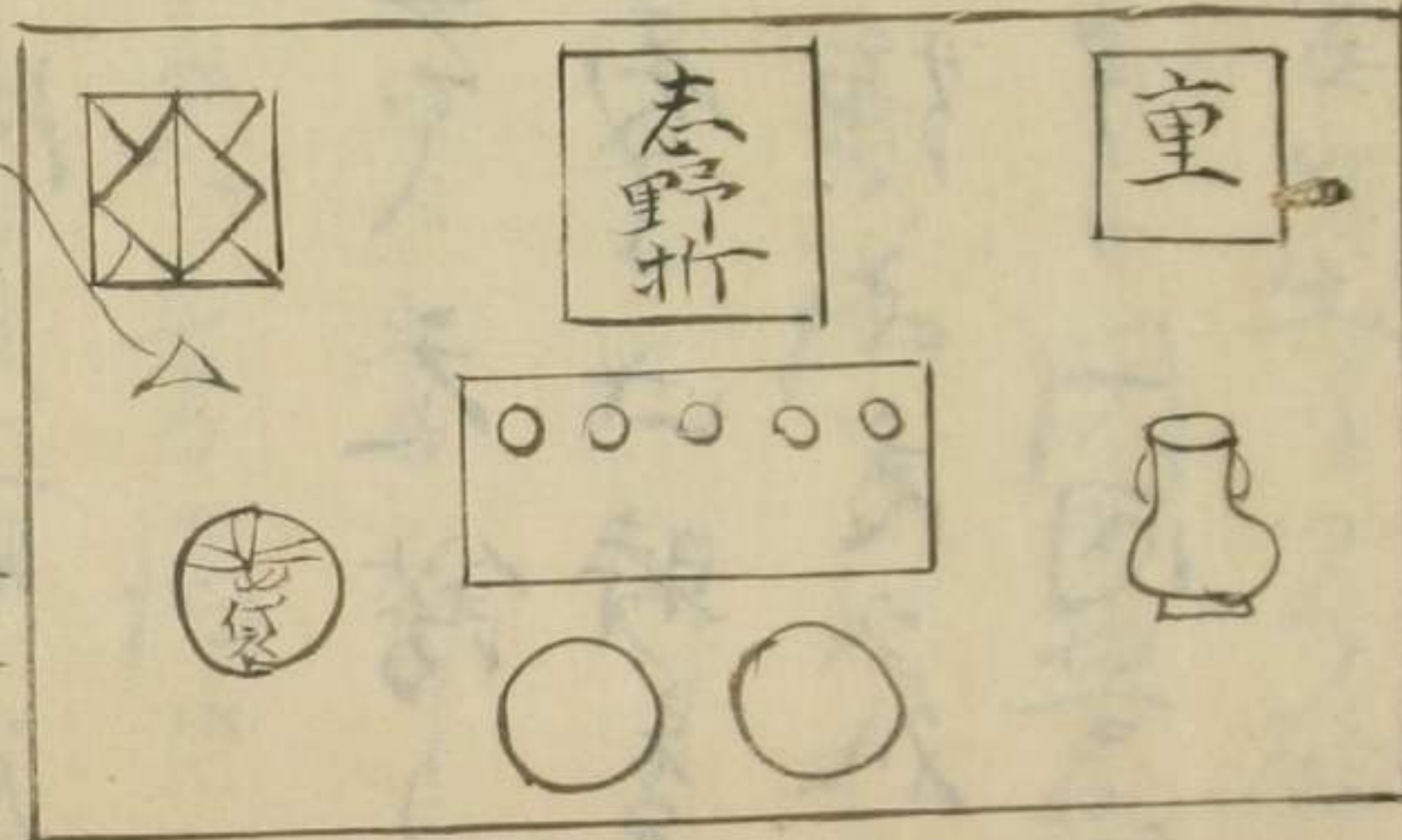
の 中 へ 着 上 各 へ 一 回 ぬれ ぬれ ぬれ ぬれ

乱箱道具組付圖

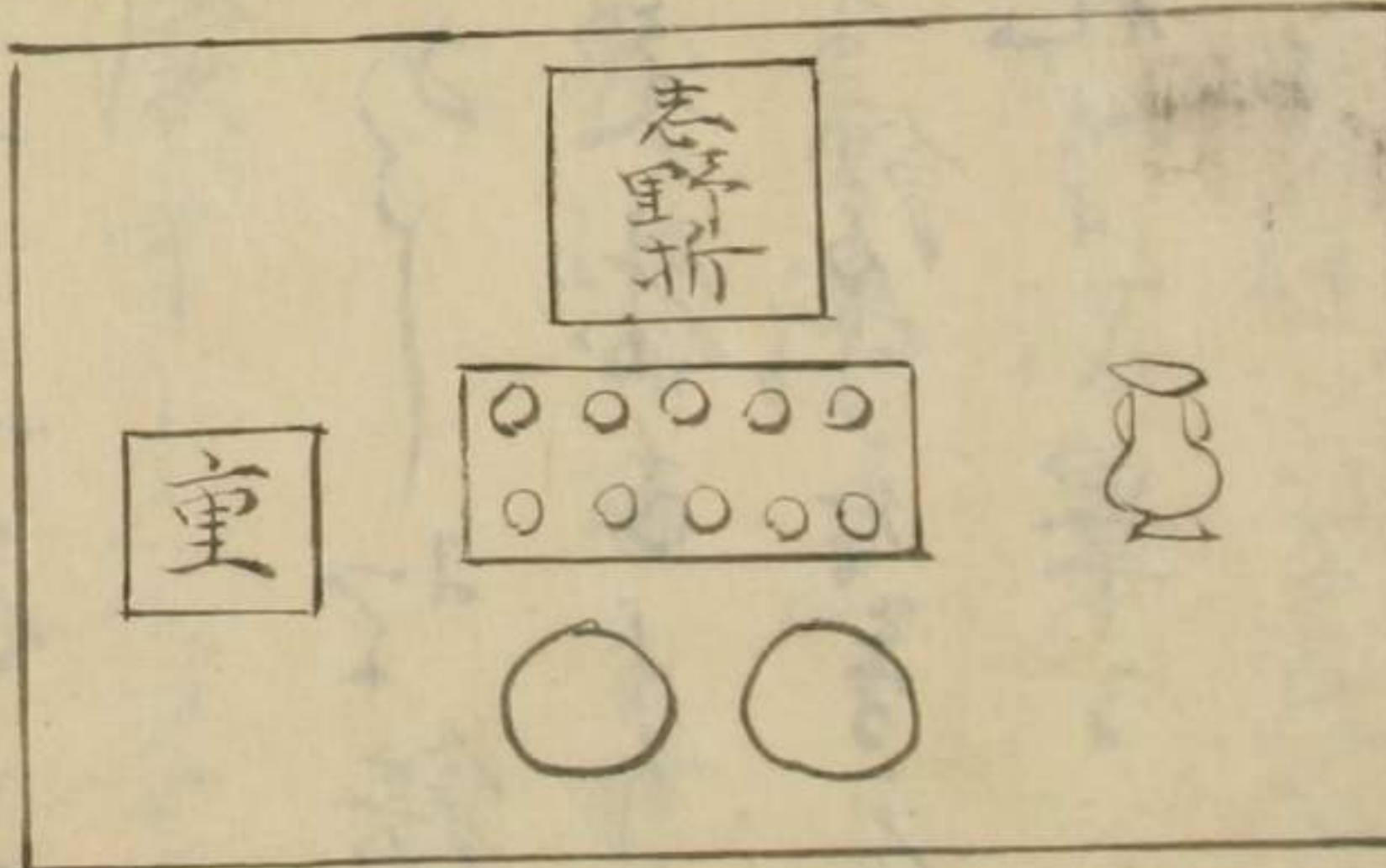
定式



継香札物箒



札魚之箒



一継香多折居口下ケ

建火及具入の奇

火箸 一 香串 不香箸

羽帚 一 香串 不香箸

乱箱の具出入の奇

一香燵 二盤 三香 四建出 五折

六銀

一香燵 二折 三香包 四鏡 五銀

六盤

後

多々試

札袋より定出入之款

片以之 一 兩以之 横 以之 片以之

片横 一 兩横 片横より入也

物字 記帳書面前後之記号

題札名 銘の上 関より出 手也 點

點 札名 銘 月日より

記帳書面文字大小之記号

取 月日 札名 點 取 出 手也 銘の上

名 象 香 烙 小 関



